



# 学校だより

板橋区立板橋第六小学校

4月号

平成23年4月6日

## 新しい出発、希望へのお出立

校長 南 輝 明

新入生の入学を祝福するかのように、校庭の桜草が咲き薫り、桜の花も蕾を開き咲き誇る美しさに、春の喜びを感じ、希望と意欲がふつふつとわいてきます。明るくやわらかな春の光の中で、進級して希望に燃えている子どもたちと、入学の喜びに満ちた1年生の顔は、新学期の学校を輝かせてくれています。保護者の皆様、お子様のご入学、ご進級、誠にありがとうございます。

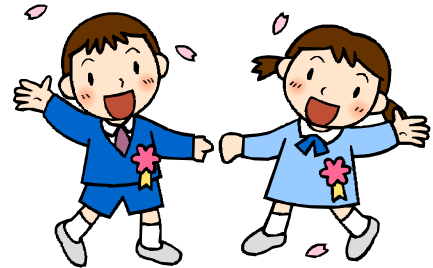
私も、板橋第六小学校で二年目の春を迎えました。充実し、実りのあった昨年度に負けないよう一歩前進の教育活動を全職員で推進し、保護者の皆様、地域の皆様のご期待と信頼に添うべく精一杯努力してまいります。本年度も、どうぞよろしく願いいたします。

さて、本年度は54名のかわいい1年生を迎え、総児童数335名、12学級と日本語学級児童数18名で教育活動を開始します。教育目標と主な取組は、以下のとおりです。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしく願いいたします。

### 1 目指す学校像 ～「人づくり 夢づくり 楽しい学校づくり」～

#### 2 学校の教育目標

- 身も心も たくましい子（強く）【本年度重点目標】
- よく考えて 実践する子（正しく）
- 美しいものに 感動する子（美しく）
- 思いやりをもって 協力する子（なごやかに）



#### 3 教育活動の目標 『豊かな心と確かな学力、健康な体を育てる学校づくり』

(1) かかわりあい、学びあい、鍛えあう「心のきずな」づくりのできる学校

- ①【子どもとのきずな】子どもと向かいあう受容と共感、心を通わせる葛藤できる関係
- ②【家庭とのきずな】支援と連携、基本的な生活習慣・読書習慣・学習習慣の確立
- ③【地域とのきずな】公開と説明、学校運営連絡協議会、学校評価、地域の人材活用
- ④【自然とのきずな】環境に対し、「感じ」「考え」「聞け」「行動せよ」実践的な態度の育成
- ⑤【世界とのきずな】自国の伝統文化を愛し、異文化理解できる地球市民の育成
- ⑥【教材とのきずな】知的好奇心と問題意識、共感して探究する旺盛なかかわり
- ⑦【教職員同士のきずな】授業改善と学力向上に協調・協働、学びあい、研鑽しあう
- ⑧【親子のきずな】愛と自立を「家庭」で教える「親子のきずな」づくりの支援

(2) 愛情と信頼に支えられ、感動の息づく学校

- ①ことばは心のメッセージ、心のキャッチボールを重視した教育活動
- ②「やった」「できた」「わかった」など、感動体験と成就感のある教育活動
- ③集団の中で学ぶ熱中体験、感動体験、ボランティア体験のある教育活動
- ④公平でどの子どもも大切にされ、出番と成就感、心の居場所のある教育活動
- ⑤子どもの能力を最大限に伸ばす、個々の子どもに応じた特別支援のある教育活動

(3) 習得・活用・探究力を育てる「授業力と学習力」を向上させる学校

- ①ねらいと評価基準（規準）を明確にして、意図的で計画的な授業づくり
- ②授業で勝負、できるまで わかるまで、考える喜びに感動し胸ふるわす、とことんの実践
- ③知的好奇心を引き出し、習得・活用を基に問題解決的で体験的、探究的な学習指導の徹底
- ④個性的、創造的な授業・教材の開発、P・D・C・Aサイクルの重視
- ⑤東京ミラムを基に基礎・基本を踏まえた、思考力・判断力・表現力を重視した確かな学力の育成
- ⑥TT指導、人材活用などの指導法の改善
- ⑦自ら学ぶための学習スキルと学習習慣、読書習慣、基本的生活習慣の定着

(4) 安全で、いじめ、不登校、問題行動のない「心の居場所」となる学校

- ①人命・人権・安全重視、児童虐待防止の原則と社会規範確立を目指した人間教育
- ②問題行動の早期発見とスピーディーで組織的な危機対応、スクールカウンセラーと校内組織との連携
- ③認めあい、支えあい、励ましあう人間関係づくり、心の居場所づくり
- ④相手意識を育て、秩序と潤いのあるきれいな環境づくり

(5) 地域に開き、地域に信頼される学校

- ①保護者の願いを受けとめ励ます、こまめな通信・連絡・相談、即応体制
- ②学校評価を学校運営に生かし、説明責任のある情報発信
- ③学校運営連絡協議会や読書ボランティア、キャリア教育、幼・小・中との連携強化
- ④教育活動全体を通じて推進し、家庭との連携を図る食育教育

3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」で被災された皆様、関係者の皆様に心からお見舞い申し上げ、一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

卒業式の翌日3月26日の朝日新聞朝刊の投稿欄に、本校児童の原稿が掲載されましたので、ご紹介します。

～『いつか人の役に立てる大人に』～

ぼくの目の前に宮城県のたくさんのパンフレットがあります。東日本大震災の起こる数日前に宮城県観光課から届いたものです。学校の社会の授業で、自分が興味のある県を一つ選んで調べるという勉強のために、宮城県観光課の方にお問い合わせして送っていただきました。

ぼくが宮城県を選んだ理由は、正直に言うと、どんな所なのかよくわからないから知りたかったからです。それほど東京から遠くないけれど、リアス式海岸で漁業がさかんなことは知っていました。ぼくは特産物は何だろうと興味を持ったのです。

パンフレットに写る宮城県と、いまテレビや新聞が知らせる震災後の宮城県とが全くつながりませんでした。でも、お母さんに「いまこの瞬間にも多くの人たちが、私たちの想像を絶する苦しみの中にいるのよ。私たちは何をすべきだと思う？」と聞かれました。

節電する。買いだめをしない。おこづかいを募金する。子どものぼくにはそんなことしかできません。すると、お母さんが「まだ子どもだからこそ、未来に向けて持っている力がたくさんあるはずよ」と言いました。

ぼくは考えました。一生懸命もっと勉強します。体も心もきたえます。そして、いつか人の役に立てる大人になります。

宮城県観光課の皆さん。たくさんの被災された皆さん。そして、命をかけて原発の危険からぼくたちを守ろうとしてくれている皆さん。これが、11歳のぼくがいまできることです。

